

柿生文化

平成22年7月16日
川崎市立柿生中学校
柿生郷土史料館 櫛・研誌
第25号

柿生・岡上 鉄の系譜 VII



5世紀中ごろ

鶴見川流域に先進的文化的存在

横浜市歴史博物館
企画展を見て

- ・ 矢崎山遺跡 (横浜市都筑区) の謎を探る
- ・ 製鉄工房・カマド・須恵器の存在



6月5日より開催されている横浜市歴史博物館では「古墳時代の生活革命」と題して企画展が開催されています。そこで紹介されている矢崎山遺跡を中心とした古墳時代中期の鶴見川流域の姿を考えてみます。

横浜市都筑区荏田の矢崎山遺跡は、鶴見川支流の早淵川流域にある遺跡で、昭和51年～52年にかけて港北ニュータウンの建設のため発掘されました。ここからは、古墳時代中期(5世紀)の大規模な集落の遺跡が発見され、遺跡からは、この当時としてはかなり先進的な生活の様子を知ることができました。例えば、ほとんどの住居址から竈(かまど)が見つかっています。



(矢崎山遺跡発掘現場)

当時は一般的には、縄文時代のように家の真ん中にある炉で煮炊きをしているわけですが、竈は住居の側面に設置され、高い火力を得ることもでき、蒸し器などの調理器具なども盛んに使われるようになりました。また高温で焼かれた朝鮮伝来の須恵器(けき)なども発見されるとともに、鉄製品を作る鍛冶の技術も持っていたようで鍛冶の道具や炉跡やヤジリなどの製品も多数発見されています。

これらの技術は、当時、朝鮮半島の渡来人によって日本にもたらされたもので大和王権と各地方の有力首長たちとのネットワークを通じてのみ入手できるものであったものと思われます。このような視点で考えてみますとこの当時、鶴見川流域は大和王権とのつながりをかなり強く持ちながら発展したものと考えられます。 →次ページ



(5世紀頃の矢崎山遺跡とその周辺遺跡)

→前ページから続く **矢崎山遺跡から分かる人々の生活**

矢崎山遺跡で発見された竈(カマド)から、5世紀のカマドの姿について考えてみましょう。①の写真は、当時のカマドを再現したものです。



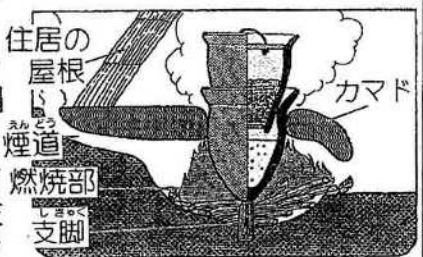
①(当時のカマドの模型)

炉の一部には煙道が出て煙を外にだします。②図のようにカマドに乗せた甕(かめ)に水を入れ、甕の上から甌(にしき:底に小さな穴が開いている)に上から重ねるようにし、火で加熱すると蒸(む)されたご飯等が出来上がるわけです。このようなカマドは5世紀にはまだ、普及していません。普及率は全国で10%、関東地方では4%ほどでした。しかしこの矢崎山遺跡では、ほとんどの住居にカマドがありました。

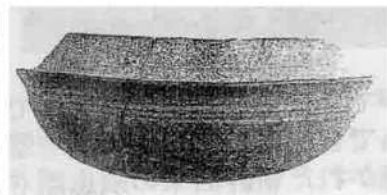
このような点から考えると全国的にみてもかなりの先進地域であったといっても過言ではないでしょう。

一方、この遺跡から発

見されたもので見逃してはならないことは、「須恵器」の登場です。須恵器は朝鮮半島の硬質土器をモデルにした1000度以上の高温で焼かれた灰色の土器です。(備文土器は約500~600度、弥生土器は約800度、古墳時代以降の土器は約850度)したがって、大変硬く吸水性も少ない良質の器といえます。もともと、須恵器は4世紀の末に朝鮮半島から技術者を呼んで一部の有力豪族のもとで生産が開始されま



②(カマド略図)

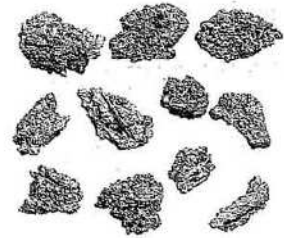


(発見された須恵器)

ための装置)の羽口(はぐち:甕から炉に空気を送る管)などが発見されています。同時代の製鉄の跡をもつ遺跡は、関東では千葉県や栃木県に集中していますが神奈川県では、例が少ないようです。鉄製の武器や農具、工具は大変貴重なものであったはずですが。しかし当時は、原料鉄の多くが朝鮮半島からの輸入品と思われ、たぶん板状にした地金(じけ:製品にする前の粗鋼)のようなものを輸入したのでしょう。4世紀

したが5世紀初頭には大阪府泉北丘陵に王権直属の生産拠点が作られ全国各地に供給されたようですが関東地方ではまだまだ手に入りやすく祭祀用などの限られた用途に使用されたようです。

矢崎山遺跡の特徴のひとつとして注目されなければならないことは、鉄器生産に関する遺物や遺構(土に残った痕跡)が発見されていることです。ここでは、鉄滓(てつさい:鉄の器に出るガス)や鑪(ふいご:炉に空気を送る



(発見された鉄滓)

頃から日本がさかんに朝鮮半島に関わりをもつようになるのも鉄との関係があったのではないかと考えられます。その中での鶴見川産の砂鉄の位置付けも興味ある所です。

矢崎山遺跡は、発見されたカマドの使用状況、須恵器の使用、製鉄技術などいずれをとっても大陸との関係を強くもっている姿が浮き彫りになってきます。さらに大陸との関係の中核になっている大和王権とのつながりも注目され、今後の研究に期待が寄せられるところです。参考資料:「古墳時代の生活革命」(横浜歴史博物館)



(発見された鉄器:矢じり)

柿生郷土史料館の完成に向けて

柿生中学校 黒川 保之

いよいよ校舎も完成し6月7日には引っ越しを済ませました。地域の皆様に資料の収集等をお願いしている『柿生郷土史料館』は11月20日の校舎落成記念式典と同時の開館を目指して作業を進めています。

史料館は教室約3室分の面積を中央で分割することができます。奥のスペースは旧柿生中学校区から出土または保管されていたものや、川崎市市民ミュージアムよりお借りしたものを中心に構成していただくだけでなく、ボランティアの方々に展示資料の解説をしていただき、見学者により学習を深めていただけるような運営を考えています。また学校教育に関しては、それらの史料を使い実際に授業を展開できるような工夫をしていきます。生徒たちが実際に実物に触れて学習し歴史を身近に感じてくれたらと考えています。



前室より奥側展示スペース

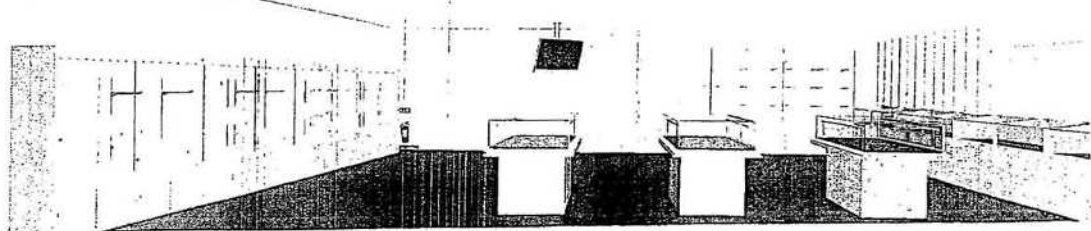


地域資料書架

入り口側のスペースには図書架を設置し、地域の資料関係を調べることができるスペースを確保します。今のところ地域の杉本長治様からご寄贈いただいた書籍を中心に、今後購入や収集をすすめ充実させます。地域学習や研究会等の拠点となることを目標とし、整備をしていく予定です。ここでの研究の成果が今後史料館の展示につながっていくことが目標です。また設

設の充実という面では史料館倉庫もあげられます。ご寄贈・ご寄付していただいた資料を、湿気を防ぐために24時間エアコンディショナーで管理することができます。限られたスペースですが恵まれた環境に感謝しております。

施設の運用に関しては史料館設立部会が運営委員会に移行し、施設の開館時間・開館曜日等を含め検討していく予定です。また、史料館内に設置された茶室の活用に関しても効果的な運用をしていきたいと思っております。ボランティアを含めて今後またお願いすることも多いと思っておりますが、何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。



史料館展示スペース イメージ

第23回

柿中カルチャーセミナー

テーマ「古代の杉山神社」

(日時) 平成22年8月30日(月) 18:00

(会場) 柿生中学校 「柿生郷土史料館」

(講師) 平野 卓治 氏
横浜市歴史博物館主任学芸員

(内容) 鶴見川流域文化を特色づける「杉山神社」の古代の姿を杉山神社研究のプロローグとしてお話しいたします。

博物館企画展 案内

発掘された日本列島 2010

— 発掘された重要な遺跡
遺物の発掘速報展 —
— 古代武蔵国の郡衙 —

(期間) 6月5日より
7月25日まで

(会場) 江戸東京博物館
(03-3626-9974)

(内容) 現在、発掘調査中の橘郡郡衙等からの遺物を展示

博物館展示情報

テーマ「絵図でめぐる川崎～失われた景観を探る～」

(期日) 7月17日～9月5日 (会場) 川崎市市民ミュージアム (〒754-0052)

(内容) 江戸時代の古文書・絵図と現代の航空写真や地形図を比較し、地域の変遷の様子を見ます。また多摩川や街道の江戸時代の姿を絵図から見ます

柿生郷土史料館から お知らせ

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

このような史料はありませんが

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵図」
- ◎江戸時代の「高札」(慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」・「新聞」
- ◎小型の農具「千歯こき」「備中鎌」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」(矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など)
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで